

# 二九精密機械工業 京都工場

## 最前線 京滋ビジネス

狭心症や心筋梗塞のカテーテル治療に使うステント(筒状の金網)や腹腔鏡手術用の鉗子、血液分析用の針。生産の実に7割を医療機器向けの部品が占める。極めて高い精度が要求される仕事を可能にしているのは、独自の微細加工技術だ。

たとえば、鉗子やニードルに用いるチタン製パイプ。直径0.5ミ、内径0.3ミの細さは世界でも例がないという。チタンは軽量で耐食に強い。磁性を持たない点が医療用に向いているが、引き延ばす際に焼き付きやすいなどの課題も多く、素材としては敬遠されがちだった。

二九精密機械工業は、圧延の力加減や温度の管理を徹底することで製品化に成功した。工場では、パイプ状にする作業から用途ごとの加工に至るまでを一貫生産。パイプ表面にらせん状の模様をレーザー加工で施すことで、しなやかさも兼ね備えさせた。

パイプの内面は血液が付着

## 医療機向け部品 精緻加工

しないよう滑らかに仕上げる必要があるため、研磨加工機は独自に開発した。二九良三社長は「他社にない製品は既存の生産設備からは生まれにくい。だから、社内で工夫を凝らして設備を考案している」と話す。パイプの検査器具な

どを開発し、京都府の発明等功労者表彰を受けた社員も複数いるという。

同社では、毎年売り上げの5〜7%を新機械導入などの設備投資に当て、技術力の強化に取り組んでいる。昨年は約6億円を掛け、京都工場と八木工場(南丹市)に工作機械や数値制御(NC)旋盤など計9台をそろえた。

工が可能となるフェムト秒レーザーを導入した。樹脂やアクリル素材にも加工できるため、事業分野をさらに拡張する考えだ。二九社長は「他社が敬遠するような課題にも対応する『最後のとりで』であり続けた。安さで勝負するのではなく、高い独創性や発想力が求められる仕事をしていく」と力を込めた。

(今野麦)



昨年8月に京都工場に導入したフェムト秒レーザー。アクリルや樹脂も加工できる(京都市南区・二九精密機械工業京都工場)



パイプの内側を磨く自社製の研磨機。パイプ状にする工程から用途別に加工するまでを一貫して手掛ける

### メモ!

二九精密機械工業 1917年に二九良三社長の祖父・長太郎氏が仏具関連の加工を中心に創業し、53年設立。今年3月期の売上高は約34億円で20年度までに50億円を目指す。従業員は193人。地域経済への影響力や成長性が評価され、昨年末に経済産業省の「地域未来牽引(けんいん)企業」に選ばれた。増築中だった本社社屋は3月に完成。